

# 障害ある子も普通学校へ

## 広島で集会 当事者の思い

### 人に頼らないこと 自立だと思ってたけど…

普通学校から地域の中学校に転校して間もない頃、体育の授業後にグラウンドに取り残された。これじゃ校舎に戻れんと思っ、前から足音を立ててきた女子生徒に頼んで教室に連れていってもらった。「どこに何があるかよう分かんないよ」と言いつつ「聞きゃあええじゃん」という答えが返ってきて、聞けばいいんだと納得した。

修学旅行先でつえを持ってお土産を買いに行こうとしたときは、同級生が「土産を持ってんじやろ。わしらがあおるけえつえ置いていけ」と言ってきた。普通学校では「人に頼らず歩きなさい」と教わり、人頼みにせず自分でやるのが自立だと思っていた。でも違った。人間関係を築くことが、自立する上で一番大事なんだと級友たちが気付かせてくれた。

街中に出て友達と遊びたい一心で一人でバスに乗るなど、できなかったことが「関係性の力」でできるようになる経験は何度もした。一方、今の日本の障害者を分ける教育は「障害を克服しなければいけない。そのためには関係性を犠牲にしてもいい」という考え方ではないか。でも結局、いろんなことを誰にも頼らずできるようになったら、社会とのつながりが壊れていたら意味がない。障害があってもなくても、人は依存し合ったり前なんよと伝えたい。

障害の有無を問わず子どもたちが共に学ぶ「インクルーシブ教育」。世界で浸透する一方、日本では障害のある場合は特別支援学校・学級で学ぶことが多い。普通学校を選んだ障害者や保護者はインクルーシブ教育にどんな思いを持っているのか。今月中旬、広島市であった「障害児を普通学校へ・全国連絡会」の集会で、パネル討論に参加した2人の声を聞いた。(衣川圭)

9月28日 中国



パネル討論で発言する高松さん (広島市南区)

全国で中3から普通学校に通う  
広島で初めて点字受験で高校進学  
高松豊さん (48)  
広島市南区

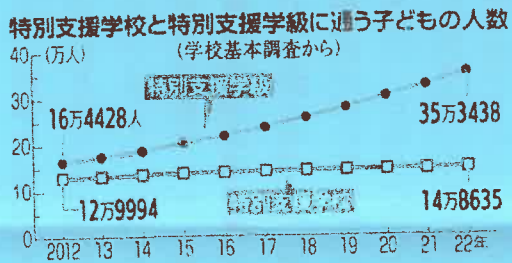
### 学んでけんかして その先に共生

息子は普通学級で同級生たちと楽しく過ごしている。こ  
とし、息子が女の子の机によ  
だれを離らしたらしく、その  
子がとても嫌がっていたと聞  
いた。「拭くんよ」と言っても  
やらなかったけど、ある日、外  
出先で息子がポケットからハ  
ンカチを取り出して自分でよ  
だれを拭いていた。親が言っ  
ても聞かないけれど、子ども  
同士のやりとりから学んで、  
考えているんだなと思った。

大学の相談機関では、好き  
なことや夢中になることが発  
達に前向きに影響すると学ん  
だ。2年生の時、動物の好き  
な息子と一緒に動物の研究を  
し、動物園の飼育員との交流  
も後押ししてくれた。息子は  
動物名の看板を見て、いつの  
間にかひらがなやカタカナを  
読めるようになっていた。

最近「好きな人誰なん？」  
という小学生らしい会話に、  
息子も入っていると知ってす  
ごく面白かった。共生社会は、  
大人になっていきなり実現で  
きるわけではない。子ども同士  
で遊んだり、学んだり、時に  
はけんかをしたりするささや  
かなやりとりの延長線上にあ  
ると信じている。だからこそ  
インクルーシブ教育は大切な  
のだと思う。子どもの無限大  
の可能性を信じて、一緒に前  
へ進んでもらえたらうれし  
い。

障害のある小学生の息子が普通学級に通う  
保護者女性 広島市



### 分離教育 国連から改善要請

国連の障害者権利条約に盛り込まれ  
ているインクルーシブ教育。同じ場で  
学ぶことで、人間の多様性を尊重して  
認め合ったり、障害児の社会参加が進  
んだりすることが期待される。実現に  
向け、障害に応じた「合理的配慮」が  
必要となる。

日本政府も障害者権利条約を201  
4年に締結している。だが、国連の障  
害者権利委員会から昨年9月、障害の  
ある子どもが分離された場で学ぶ「特  
別支援教育」をやめるよう勧告を受け  
た。通常学校が障害児の入学を拒めな  
いようにする措置も要請された。

勧告当時の永岡桂子文部科学相は  
「多様な学びの場で行われる特別支援  
教育を中止することは考えていない。  
勧告を踏まえインクルーシブ教育を推  
進する」と述べている。

